第8回 プレゼンテーション 実践・修了式

■日時／令和5年8月26日（土）10:00～12:30
■会場／益城町交流情報センターミナテラス視聴覚室（益城町木山236）
■参加／ 26名（うちアーカイブ視聴1名）

町長挨拶・プレゼンテーション実践・修了式授与・代表講話・ゲストコメント・集合写真撮影・交流会（会場は移動）

【講座内容】

最終日は、これまでの講座受講と東北視察などを振り返りながら、プレゼンテーション実践として「ここで学んだことをこれからどう生かすか」というテーマで、全員3分間のプレゼンテーションを行った。それぞれに趣向を凝らし、実践に生かしていこうとする意欲が感じられる素晴らしい発表であった。

後半は、4カ月以上にわたる受講をねぎらう修了証書を授与。当事業の開催地である益城町町長に参列いただき、これからの励みにつながるエールを交えての挨拶をいただいた。



益城町長よりエールが送られた







【発表テーマ】

1期生

- 語り部として学んだことを生かしていきたい
- 災害時のトイレの使い方の啓発
- 議員という立場からも一石を投じる
- 行政職員として横ぐしを刺す

2期生

- インクルーシブ防災を発信
- 男女共同参画のまちづくりと防災計画
- 妊産婦、子育て中の方を代弁した防災計画を
- 地区防災計画に女性 50%参画を入れたい



【参加者アンケートより】

仲間との繋がり、出会いに本当に感謝します。

今回、改めて日常の生き方が大事であることに気付かされた。日々のつながりや信頼関係が有事の際に生かされるのだ。人が人として認めあい、助け合える場を作れる人を目指す。

女性の目線でどんどん参加して、より安全・安心・安息に対し、より寄り添う活動をしたい。

人と人が繋がっていく、その縁を大切にして微力ながらスタートし、小さな力として役に立ちたい。

それぞれの想いや、表現の仕方に共感、驚きの連続でした。視野が広くなりました。

今は、やり遂げた気持ちがいっぱいで、感謝しかありません。1人の女性として、何ができるか、役職や肩書きがなくても何をすべきか、どう振る舞うべきか。いろいろ考えさせられた、得るものが多いセミナーでした。

ぼうさいこくたい2024in熊本

2024年10月19日・20日、熊本城ホール、国際交流会館などで行われた「ぼうさいこくたい2024in 熊本」。私たちミューズプランニングは「防災・減災に不可欠な男女共同参画の視点～熊本地震の経験を通して 私たちが伝えたいこと」と題して、くまもと県民交流館パレア男女共同参画センター・熊本市男女共同参画センターはあもにいとの連携で、パネル展示とブース内ミニワークショップを行いました。

当日はRin修了生も複数人参加。情報誌や資料、啓発グッズの配布などを行いながら、来場者への説明を行いました。県外の方から熊本地震当時のことを尋ねられたり、「こういった目線で備蓄を考えたことがなかった。会議で共有します」といった声などもあり、参加者とともになぜ防災・減災に男女共同参画の視点が必要なのかを考える機会となりました。









10月20日、実行団体５団体によるセッション「熊本から能登半島へ　ジェンダー視点の災害対応の今」を開催

もしもの備えをいつもの備えに　親子でチャレンジ！ 防災ワークショップ！

Rin1期生を中心にワークショップを企画・運営！

2023年9月2日、益城町で行われた防災の日の一環として、「益城町復興まちづくりセンターにじいろ」にて親子防災ワークショップを実施。これは１期生の実践活動として取り組んだイベント。備えから復興まで一連の流れを疑似体験するという企画で、Rinのメンバーはそれぞれの担当に分かれ、防災かるた、クイズラリー、炊き出し体験、避難所体験などを企画・運営しました。講座での学びを生かした上で、家族で楽しみながら防災について学び体験する仕掛けが随所に見られるという、充実した防災啓発イベントでした。

午後は、被災の経験を語り継ぐ「みんなでツナグ vol.5」にて、Rin1 期からは大迫和子さんが発表。復興過程の益城町で、熊本地震当時を振り返り、未来につなげる一日となりました。





